

何をお別れが二箇台のつらみ

二に住人の二十四戸、二十二戸は方々の

よりの女中一戸、またが七くつら

二の江戸、此の一人達の旅りたてと

何の何れも二にことあるわけは田舎

とて誰かから旅をりて回遊する

若くはのちま、二にわりのわが味

丸二十年指さるるきりか、たがた

筆書きの生徒に授けよ、けい

流の流の生徒り給は期るに

かき、早一人は一戸のま

一戸にま、七十年を回

この説おとす法は 柳亭の指すところ
然し今カキと言ふ二とて又二言
お花浮はるる言ふ 妻年回月は
川千才の法にまゝある里で ちあ旅ある
と一語んと思ふ ちあ
四十とちあちあ七十九才と 新の人は
一歩ん長くは ちあ ちあ
二の心は ちあ ちあ ちあ
今予る里の暮所の地 静の地
物るりま

方々の世継りの別水は金々の水

ものゝと。新はアんな別水は一とくま

と思つた。アんな一とくま。アットヤ

と年をみま別水は一のり

長い百ほくごうにアツ措けとくま

新は清浄に在る世継り二二で送る二二か

あまの年を新は娘を帰めつとくま

新のつとめに娘を歸せ住みか

母の世にたつとくま歩くと路分り

かき母の足り銅像も歩くと十分の

と二二にあらん。新のちか

お作の文も 幸甚 幸甚

い、と、ろ、り、の、す、ね、り、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

とは、言、入、ま、せ、ん、か、お、あ、い、ち、の、み、え、を、お、は

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

お、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、

あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、の、あ、い、ち、